

2017年(平成29年)6月7日(水曜日)

この5月20、21日に、東京にある府中の森芸術劇場で、府中市の主催による、没後250年記念川崎平右衛門ゆかりのまち交流事業として合唱構成劇「武蔵野の歌が聞こえる」の公演や歴史講演会&トークショーなどが行われた。

川崎平右衛門(169



4(1767年)は多摩郡押立、現在の東京都府中市押立の名主で、江戸時代中期に享保の改革の一環として行われた武蔵野の新田開発を成功に導いた立役者である。武蔵野の新田開発の後、美濃の国に派遣されて木曾川・長良川水域の洪水対策を完成させ、さらには石見の国の銀山奉行とな

農的社会デザイン研究所代表・蔦谷栄一氏

協同の心 江戸中期に

知ってほしい 川崎平右衛門

って銀山を復興させている。

「必要なことは他人に頼らずに自分たちでやる」と節約と自給を呼び掛け、「力ある者は力を出せ。知恵がある者は知恵を出せ。心優しい者はみんなに優しくしてやれ」と諭すとともに、安心して働ける仕組みを構築しながら、民衆の力を引き出していた。すなわちそれぞれの事業を成功に導いた鍵は協同の心と取り組みにあったといえる。

こうした協同の取り組みを導いた先人としては、協同的結社「報徳社」の源となった二宮尊徳や、共同の財産を設けての「先祖株」を広めた大原園学は既によく知られている。ところが二宮尊徳らよりさらに100年も前に活躍し、偉大な功績を残した川崎平右衛門については、あまり知ら

れていないというのが実情である。

このため川崎平右衛門を世に広く知らしめるとともに、協同への関心を高め協同活動を活性化させていくために、府中市のイベントの合間の時間をいただいで、川崎平右衛門顕彰会・研究会を立ち上げた。会長には山田俊男参院議員が就任、市民ボランテニアに農協系、ワーカーズコープ系、さらには学者・研究者も加わり、筆者が事務局長を仰せつかっている。

JAMまじりなごでの川崎平右衛門を取り上げての講演会・シンポジウムなど開催の動き掛けをはじめ、もろもろの活動を予定している。現代社会に協同活動をよみがえらせ、地域の活性化につなげていくことを目指している。

(次回は14日付)